

西暦20XX年…

人間の脳機能のほぼすべてが解明された未来…

医療の発展の影で、その技術を悪用した

催眠犯罪を繰り返す催眠術師が世に溢れることになる。

脱法催眠行為が横行する街も現れ、
世界は混迷を極めていた――

しかし、人類にはまだ希望が残っていた。

催眠犯罪者の催眠攻撃に対抗できる者――
彼らの持つ独特の脳波は催眠行為に対して乱されにくい。

そんな対洗脳・催眠特別組織のメンバーを
人は**抗眠士**と呼んだ――

本作はその**抗眠士**である「夢乃みどり」
彼女の戦いの物語である。



室内に男女の交わる音が響く……

「オラっ！ オラっ!! 絶対孕めよ！
俺の子産めッ!!」

「いやあっ♡♡ やだやだ♡♡ ダメっ♡♡
イッ♡♡ もうイッてるっ♡♡」

パァン!!

パァン!!

パァン!

パァン!

パァン!

だぼんっ
だぼんっ



「おおおおっ夢乃みどりに生射精キめる!!
ぶりっぶり濃厚ザーメンで孕みイキしろ!!」

「あッヤバイほんとイキそう!!
ラストスパートかけるからな!!
ちゃんと膣締めろ!」

だぼんっ
だぼんっ

パァン!!
パァン!!
パァン!

パァ
パァ



「フガッ!？」

男は急に現実へと引き戻される。
先ほどまで抱いていた女が見下ろしていた。

「睡眠中失礼。

抗眠士の夢乃みどりと申します」



(夢で見た通り…いや夢よりスゲえ体してるな…)

凜とした顔や声とは裏腹に、
あまりにも**大きいおっぱい**が目立つ。

ミッ

やさっ

△4…

△4…

腰回りも太ももさえも、
世の中の男の理想を詰め込んだような
ワガママっぷりを醸している。

どこからか**甘い匂い**すらしており、
妊娠適齢期の雌として完成されている、
まさに**激シコボディ**であった♡



「違法に夢を視聴する器具…
お前…これをどこで手に入れた？
今まで見ていた私のビデオだが」

ミ4..

やさっ

△4..

△4..

「それは口止めされているんだあ…
俺の女になるっていうなら教えるぞ♥」

「下種が…っ」

手を出せ。手錠をかけさせてもらっ」



「ちょっと待ってくれ…
久しぶりに動くから、体が痺れて」

そう言った男はゆっくりと
体を起こそうとするが、
力がうまく入らないのかふらついている。

ニヤ

やさっ

△4…

△4…

「おい…っ 大丈夫か
この器具は本当に危険なものなんだぞ」

助けようと、みどりが男に手を伸ばすと――



バチイッ!!

男はいつの間にか手に握ったスタンガンをみどりに押し当てていた。強烈な電気ショックにみどりはその場に倒れてしまった。完全に気を失っている。

ドンヤ...



パッ

「きったああああ!!!」

爆乳JKゲットオオオオオ!!!

いくらなんでもチヨロすぎだろおお!!!」

男の動作は演技だったのだ。

そのまま叫びながら倒れこむみどりへと近づく……

「やべっ……! やべっ……! もう戻れねえっ……!
ま〇っ リアルま〇にナマハメしてええっ」

男の目の前には偶然、
あの凜とした激シ〇爆乳JKが
まるで種付けをおねだりする様に
尻を突き出していた。



「むうっうっ！ 匂いだけ！ 匂いだけ！
すーっすーっ」

偶然にも孕ませおねだりをされて
男の精巣はもうパンパン♡
一刻も早く無責任な膣内射精をキメたいところを
匂いだけで必死にこらえている。というのも……



「はあっ！ くっそ手が震えて… これだ…」



男はどこから取り出したカプセルを開けると
指に小さな虫のような機械を乗せた。
そのままゆっくりとみどりの下着をずらしていく。

「うおっめっちゃあったけえ……」

男は機械を奥へ押し込むように膣にゆっくりと指を差し入れていく。

「えっこれ処女膜じゃん！」

「このエロ乳でマジで処女だったのか……」

夢乃みどりファンの間でも
みどりが処女か否かは
たびたび話題に上がっていた。

フッポ……



「よっし……子宮口♥
俺があゝの夢乃みどりの初めての相手…♥
そしてこれでみどりは俺の女♥」

男は処女膜に傷をつけないように、
細心の注意を払い機械を奥へと押し込むと、
指を引き抜いた。

「フアンの皆ごめんw俺が処女もらうわw」

フワッポ…



男は息を荒くして服を脱ぐ。
いきり立った男根にはもちろん何も付けず、
そのままみどりの小ぶりの臍に押し当てた。

生まれてからずっと守ってきた貞操を
あっけなく奪われようとしていることに
当の本人は全く気付いていない。



男は何の躊躇もなく、腰を深く突き入れた。
相手のことを何ひとつ考えず、ただ自分が
膣内で射精するだけ♥本気のレイプ開始♥

「おおおおお 夢乃みどりの生処女膣たまね…っ
もうイキそう」

ちゃ

ギン

わふ、ふ、ふ、

夢乃みどりの今までの人生を全否定する
しょうもない初セックス♥

優しくも逞しくもない
タダの犯罪者に処女を明け渡す
徹底的なアド損セックス♥

「みどりっ！ 結婚しろ…っ！ 精液少し漏れてるっ
イクイクイクイク…」

男はあまりの極上膣にまともに腰が振れないまま
夢乃みどりの清廉潔白だった子宮に
ただただ自分の劣等遺伝子を送ろうと必死♥

あともう少しで

犯罪者の金玉からジユクジユク作られた
ゴミ精子が極上の雌に送られてしまう♥

「やべえマジで全部飲めっ
毎日セックスしようっ クソがっ
やばいホントに出るっ 締めろよ!!」



「オオオオオオッ!! 死ねえええッ!!」

男はみどりの腰を力強く掴み
何も知らない子宮にえげつない匂いと粘度の
黄ばみザーメンを無理やり注入♥

現役JKの膣内にしつかりと念入りに
劣等ゼリーをこすり付ける♥♥

この後男はみどりが目覚めるまで
3回膣内をティッシュ代わりにした♥



「催眠ナノマシンが効いたなw
もう俺の指示通り動くよなあ？ 今日裸で過ぐせ」

「くっ……私に何をしたっ！」

キッ！

「抗眠士にも催眠が効くようにしたってわけよ
昨日はさんさん生憎楽しませてもらったぜ…」

男の持っていた機械は催眠ナノマシン…
抗眠士の神経系に直接働きかけ、
催眠・洗脳への耐性をガバガバにするものだった。

い
ぱるんっ

もいもい

「フッフあとなあ、お前の子宮に埋め込んだナノマシンによってなあ、俺のDNAへの感度が数十倍になってるぞ」

「勝手にしろ！」

私はそんなことでは屈しない！」

キッ！

「いいねえ…じゃあ声我慢してみろ！」

男は肩を叩くような力で
みどりの股間を軽くはたく。

い
ぱるんっ

もじもじ

「ホおおっ♡♡」

ビクッ

「ダメじゃねーか(笑)」

みどりはDNA、つまりこの男を生理的に好きな気持ちにされてしまっていた！

男は満足そうに笑うと、みどりを別の部屋に連れて行った。

キコッ♡

10分ほど、男はねっとり
みどりの爆乳を
弄んでいた。

フ——ッ フ——ッ……」

「昨日出した精子…当たってるかな？」

「知る、かつ！ ふーっ！」

「声出しているぞ(笑)」

「断る、っ！」

男には、必死に
快感を堪えるみどりが
だんだん愛おしく見えてくる。



「諦めろって♥

もう俺のオナナになれよ」

「私が…っ！

帰らなければ…

ここに増援が来るぞっ」

「それまでに堕とすわ

俺と一緒に逃げようぜ」

「意味がわからない……！」

「ククク、俺のことは好きだが
理性がまだあるようだ」

ずっと甘く撫でられて
ビンビンに勃起した乳首を
男は下品に舐め始めた。

たふふ。。

ふふふ
ふふふ

「にゃああっ♡
くふふふふっ♡♡♡」

男の舌で甘く、
まるで恋人がするかのような
丁寧なペッティング♡

みどりはこの下種な相手の、
絶対に感じてはいけない
舌遣いに優しさを感じている♡♡



「やめろおっ♡
なめるなあっ♡♡」

えろ...
ろ...

今やみどりは
舐められるごとに子宮が疼き♡
男への愛が増していく♡

わろ
わろ

我慢するほど子宮に好きが溜まる♡
男らしく愛してくれるこの雄が好き♡

「愛してない! こんな無理矢理...♡」

「俺は愛してるぞ」ギョッ





男からの突然の告白に

胸が高鳴る♥

もう好き♥

正直さっきから

ずっとドキドキしてる♥♥

「だ…だめだ…っ

私は…夢乃みどり…抗眠士

そうだ…ここで…」

『さっさとイケ!! 堕ちろ!!』

男はさっきまでの甘い動きから一変、
痛いほど勃起した乳首に吸い付いた。

ギョ

フーッ

フーッ

えろ…
ろ…

わお
わお

「オっっ☆ イッグっ…☆
これダメっ…♡
やめ…ほオッ♡」

さんざん焦らされ
敏感になった乳首を
滅茶苦茶に吸い上げる♡

ズンズン
ズンズン

オっ♡

っ

かき
かき

グン♡

グン♡

みどりの下腹に溜まった好きが爆発する。
取り締まるはずの男が好き♡
レイプする男がとても好き♡

そんな心地よい気持ちに包まれて、
みどりは気を失った——

「あっ…あなた、次は何…?」

みどりは何の違和感も持たずに
男の指示に従っていた。

「もう堕ちたか? 自分の名前言えるか?」

「ッ」

い
ぱるんっ

もじもい

「わ、私はいったい何を——!?」

我に返ったみどりを男はニヤニヤしながら
眺める。もうナノマシンによる洗脳も
だいぶ進行していた。

あたふたするみどりを男はまた
別の部屋に連れていく……

い
ぱるんっ

っ

もじもい

ベッドに寝かされたみどりの四肢を男は鎖で固定する。

「悪趣味だな……うでもしないと女を抱けないとは！」

みどりの必死の強がりも
さんざんアへ顔絶頂しまくった後では
全く男には届かない。

たけん

ギョ

ギョ

「これ垂らしたら地獄だぜ…！
オイルに俺の精液と唾液を加えたものだ…」

「DNA…っ!？」

（これはマズい…っ）」

男は茶色いオイルを
垂らすべく容器を傾ける。

ッーッ

ギシッ…

たんぽ

ギョッ



男のぐっぐつした手でゆっくりと
オイルが延ばされていく。

男の手が、オイルが肌に触れるたびにみどりの子宮が疼く。

「ふっ…くっふ…はっ」

「俺が戻ってくるまで
必死に我慢するんだな」

男が部屋を出ていく。

たん

1時間後——みどりは男とのセックスを想像して体を振っていた。

あの雄の精を子宮に浴びたい♡
全部忘れて最高の絶頂を味わいたい♡

くふっ♡ ふーっ♡

この責めを耐える理由が
いつか脱出するためではなく、

男と気持ちのいい交尾をするため♡に
すり替わっていた。



2時間後――

「どうだ??」

「オオッ…♡」

「オッ…♡」

「ひっでえww

「シーツびちよびちよじゃんw」

みどりは男を見つけたものの
声をかける余裕もなく、
小刻みに絶頂を繰り返していた。



「おーい？ 放置しすぎたか？」

「オッ…♡ オウッ…♡♡」

「…」

男はみどりの反応にいらだち、
思い切り両胸をもみ始める♡



「はああああっ♡♡♡

イグイグイグウウウウウウ♡♡♡♡♡」

オー♡♡♡♡♡

「もっど♡ もっど乳首い♡

イッグ♡♡ 死ぬ♡♡ 死んじゃう♡」

「……」

男は無言でみどりの股の間に座ると

ペニスをこすり付ける♡♡♡

無言の求愛行動♡♡♡



みどりはぐくり、と喉を鳴らした♡

うっとり男のペニスを眺めている♡

もう子宮はずっと前から負けを認めている♡

「おねだりしろ」

「ア……♡」

みどりは本能的に

『ごっでおねだりしたらもう戻れない♡』
ことを悟っていた♡

入って♡

ハズ♡

♡

♡

大丈夫♥ 解ってるよ♥ と言うかのように
男はみどりの雑魚ま〇こにペニスを挿入する。

「ふわあああっ♡♡♡
やだやだあああっ♡♡♡」

2時間薬漬けにされたアツアツのおま〇こで
大好きな彼のペニスをほどよいキツさで包み込む♡♡
カンペキ恋人同士のらぶらぶ交尾開始♡♡

ズ「4」ユウウッ...

男のペニスが子宮口を小突く度にみどりの脳が壊れていく♥

(好き♥好き♥愛してる♥愛してる♥)

ザーメンを出来るだけ新鮮なまま飲み込むため
ま〇こは常にぴっちりと密着♥♥

男がいつ射精してもいいように

子宮降りっぱなし♥♥吸い付きっぱなし♥♥

男の動きもだんだん早くなっていく♥

俺の雌ならば当然種付け♥ 逃がさない意志♥

バン! バン! バン!
バン! ズバン!

雄が最高に優越感を得られるように劣等煽りも挟んでいく♥

「やだあ♡いやいや♡
犯罪者♡♡レイプ犯なの♡♡」

「好きにされちゃう♡♡ はあん♡無理♡♡」

「あなたの♡♡名前を教えて♡♡
名前でイキたい♡♡」

「だ!」

バン! バン! バン!
ズバン!

「~~~~~♡♡♡♡♡」

「みどりに射精ッ！ 孕めッ！孕めよっ!!」

みどりは男の名前を叫ぶや否や最高の絶頂を迎える♡
同時に男も亀頭をぴったり子宮口につけたまま
無責任に孕ませる気マンマンの膣内射精♡

ツブツブのゼリー状の精液がみどりの子宮にへばりつく♡
もう洗っても取れないと主張している♡

ビュッ
ビュッ
ビュッ
「~~~~~♡♡♡♡♡」
「~~~~~♡♡♡♡♡」
バビュ

「あの、今日の伽は」

みどりは先日の責めが苛烈すぎて
精神汚染が進んでおり、
自ら男にセックスをねだっている。

そこにかつての抗眠士の面影はなく、
もはやただのスケベな爆乳JKになっていた。



極上の雌からのスケベなおねだりに
男は耐えきれずペニスを突き入れる♡♡

それをみどりが膣でやさしく迎え入れる♡♡
お互いを心から想っている同士のセックスが始まった。

「ラッ!! フッ!!」

「そんながつつかなくても…
私は逃げないぞ…♡」

鼻息の荒い男にみどりは笑いかける。



「完全に俺のモン!! 俺の女!!」

男の乱暴でヘツタクソな腰振りにも
みどりは愛を感じてしまっている♡

こんな至福の時のはずが、
意外にも男は焦っていた。

（ナノマシンの効果が切れる前に
確実に孕ませないといけねえ……）

パッパッ



ギシ...

男の使用したナノマシンは所詮安物。
完全洗脳には絶えず男のDNAを
与え続ける必要があった!!

そのためDNAを混ぜこむ行為＝受精♥が
必要だったのだ!!

（そして情報屋によると

今日がコイツの排卵期……

ここで受精させなければ俺が捕まる……!!）

男の人生のかかったがむしやらピストンが始まる♥



ギシ...



「オッ♡ いきなり激しっ♡♡♡」

「フ——ッ!! 絶対今日孕ませるからな!」
もう逃がさねえぞ!!」

「おっ♡ おっ♡ おっ♡ おっ♡ おっ♡

本気っ♡ 本気の孕ませピストンされてるっ♡」

「ナノマシン高かったんだぞ…っ!!」

お前のビデオを見ると検挙される情報も!!
お前の排卵日の情報も!!」

ハッ♡

パン!!

ゴッ♡

んっ!!



「そんなっ♡ 知らないっ♡♡♡」

「たりめえだろ!! こちどら」

夢乃みどりと! お前とセックスするために
全財産かけてんだよ!!」

「イクっ♡ イックっ♡ キっっ♡」

けっ結婚♡ 孕ませて結婚してっ♡」

男に重い愛をぶつけられて

思わずみどりからプロポーズ♡

汚い手しか使わない最低のクズ男に

人生を託す選択♡♡ 最低のプロポーズ♡♡





「うおおおおお!!

卵子あけ渡せえええ!!

一生俺に尽くせっつ!!

出るっつ!!

男の咆哮♥本気の射精♥

煮えたぎった欲望の煮凝り♥が

尿道を昇ってくる♥♥♥ もう出る♥

現役JKを受精させる♥孕ませる♥

みっともないお腹にさせる♥♥♥

最高にキモチいい無責任射精♥♥♥



「何やってんだああああああ!!

おめえええええええ!!
止まれっつっ!! 出てるっつっ!!」

みどりは男が射精する瞬間、
腰を下げてペニスを抜いたのだ……!!

さっきまで卵子を襲おうと息巻いていた
精子たちが無駄に失われていく!



「残念だったな まさに無駄打ち」

「さ…催眠は!?」

「目の前の光景が現実だっ 諦めろ」

びゅ

びゅ♡

たげっ..

たげっ..

土壇場で催眠への耐性を取り戻した
みどり!! 彼女の逆転劇が始まる!!



「オラアッ!!」

「ほおッ★」

みどりの油断ま〇こに
男のペニスが再度
挿入される!!

ズブッ...

ズチュ!!

逆転劇、終了!!



「マジで許さねえ…!!
このまま帰すわけねえだろ!!」

「やめろっ! はなせっ!!」

「二発目出るまでじっくり
ピストンしてやるからな!!」

男の精液まみれのペニスが
危険目ま〇こに
しつこく擦られる!!

男の手は万力のように
みどりの腰を掴んでいる!!

アッッッッッ...
アッッッッッ...



「くううっ!!
(カじゃ勝てないっ!)」

「暴れんなっ! 受け入れろっ!!
諦めて受精しろっ!!」

「やだっ...あっ♡」

男のしつこい求愛に
みどりのチョロま○こが
とうとう媚び始めてくる!!

ペニスはごりごり膣壁を擦り
今一度遺伝子を送ろうと必死♡

ズッ4♡

ズッ4♡

アッ♡
アッ♡

コリ♡♡
♡♡♡

ハァー

ハァー



「ダメだっ!!
諦めるな夢乃みどり!!」

「諦める! 俺の女だ!!
受精だけはしろっ!!」

「諦めないっ!!」

「雑魚ま○この癖に
生意気言いやがって…」

男はそのままみどりに
のしかかる♥

ズッ4♥
ズッ4♥

コリ♥♥
コリ♥

マァ♥
マァ♥

ハァー

ハァー

キッ!



「死ね!!」

絶対に逃がさない♡
必ず受精させる♡

男の寝バック種付けプレス♡♡♡

ド42♡
ド42♡
ド42♡
ド42♡

「んっほおおおんっ!!
これやばいッ! ダメえっ!」

ギリ♡ギリ♡
グッ♡グッ♡

デカ乳搦んで力任せのプレス♡
圧倒的な体重差は脱出不可能♡
受精不可避♡妊娠不可避♡

ガニッ!!

ギョッ!

ギョッ





「やだあああッ!!」

「これやだあッ!!」

やだやだやだやだあッ!!

「孕め孕め孕め孕め!!」

《出されちゃうっ♡》

私のタマゴにかけられちゃうっ♡♡♡
逃げなきゃ♡逃げなきゃ♡♡♡

「おおっ」発目昇ってきたあああ!!

もう暴れても無理だぞ!!

カンペキに受精させる!!

俺の勝ちだよ!!」

♡
ド4
ド4
ド4♡
ド4♡
ド4♡

ゴリ♡♡ゴリ♡
♡♡♡

ガッ!!

ギョッ!!

ギョッ



「子宮口開けるおおお!!

おおああイクイクイクイク」

もうすぐ現役JKに

無理矢理生**膣内射精**♥

どう頑張っても手が届かない高嶺の花を

ザーメンティッシュ扱いできる♥♥

男の亀頭がみどりの**子宮口**に

ねじりこむように押し当てられる♥♥

♡ ドチュ♡

♡ ドチュ♡

♡ ドチュ♡

♡ ドチュ♡

ゴリ♡♡ゴリ♡

ガニッ!!

ギョッ!

ギョッ

「オオオオオッ!!」

二発目というのにまだ粘っこい♡
何もない男の最後の悪あがき♡

絶対にこの雌を自分のモノにする♡
子宮口すらずれないようしっかりホールド♡

細心の注意を払っての射精♡
ひたすら器の小さい男に
いいように膣内射精される♡



ギュッ

ガッ!!

ビュッ
ビュッ

「おっ♡ いっぐッ♡」

自らの卵子を奪わんとする
不意打ちザーメンをモロに子宮に喰らって
夢乃みどり、屈辱の本気イキ♡♡

将来結婚する旦那にも見せないであろう
惚けた顔でザー汁一気飲み♡♡

完堕ちま○こも小刻みに収縮♡
クズ男の最高の射精をサポート♡



ビュッ♡

ミ4♡

ミ4♡

ビュッ♡
ビュッ♡

「ま、まだ受精さえしなければっ♡」

「受精しろ!! 今すぐしろ!!」

ダメ押しの一ピストン♡
ノリスクで遺伝子混ぜたい
クズ男からの催促♡♡

卵子の逃げ場、ゼロ♡





ツブ♡
命中.....♡

危険目ま〇こ敗北♡
犯罪者の劣等遺伝子の
強制まぜまぜ大成功♡

「あ.....あ.....」

夢乃みどり、敗北!!



「やった!! 勝ったぞ!!
やっぱあの男の言う通りだった!!
ナノマシンとスタンガン!!」

男が勝どきの声を上げる。

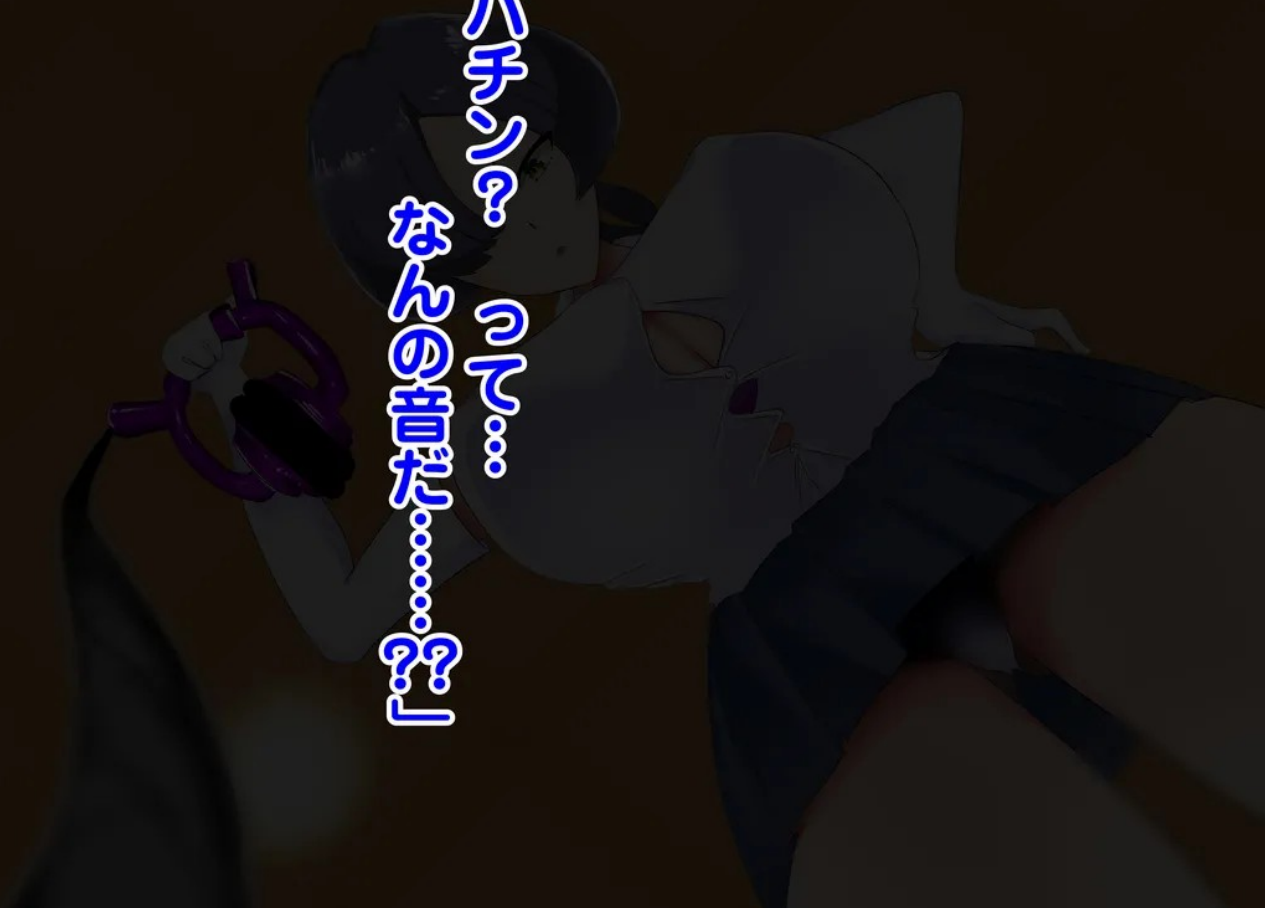
「そうだ…コイツに協力してもらって
ほかの抗眠士も俺のモノに……」

「俺の勝ちだ!!」

パチン!!



「パチンって...
なんの音だ.....??」



「え…あれ……俺は…」

さきほどまで抱いていたはずの女が
見下ろしている。

「これが催眠術だ」

「せいめん…」

「おそらくは私をそのスタンガンで襲い—
ナノマシンとやらで存分に辱め、
いたぶったのだろうが
全てはお前の脳が見せた虚構」



「貴方の欲望がこうありたいと願った姿…
それを見せたに過ぎない」

「そ…そんな…」

「こちらNo35、対象を確保」

すべては男が見た夢!!まぼろし!!
夢乃みどり、堂々の勝利!!



エピローグ

通信から波の音が聞こえてきたことに、
夢乃みどりのバディ・仕事仲間である『圭介』は驚いた。

「みどり!? みどりなのか!? やっと繋がった!
……で、なんで発信が海の上に」

男に勝利した後、みどりはその足で港に向かい――
船に乗っていた。

「南リソ島で違法機材が販売されている。
私の夢ビデオもそこで買ったようだ。」

そう、おそらくヤツだ……
また拠点をかえて逃げられる前に捕まえる……
止めてくれるなよ圭介」

「おいおいマジか! なるほど船か!
急いで増援を手配するが数日はかかるぞ!」

「問題ない――」

みどりの因縁の相手――自分のビデオを売り、
男に違法機材を売った商人――
この世に『催眠犯罪組織』を作った男との対決が迫る。

その最終決戦の舞台は南国へ――

次回 夢乃みどり三部作 完結編
乞うご期待!